

トピックス

会長選挙・評議員選挙 開票結果

次期会長・評議員選挙（任期は 2024 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）の開票結果を報告します。

会長選挙

投票総数 61 票

有効投票数 59 票（白票 2 票）

当選：中田 兼介 14

次点：谷川 明男 9

次々点：田中 一裕 8

評議員選挙

投票総数 610 票

有効投票数 542 票

（白票 60 票 無効票 8 票）

1. 谷川 明男 40

2. 山崎 健史 31

2. 鈴木 佑弥 31

4. 村田 浩平 29

5. 奥村 賢一 26

6. 鶴崎 展巨 23

6. 榎元 敏也 23

8. 高須賀 圭三 22

8. 田中 一裕 22

8. 片山 詔久 22

11. 原口 岳 19

12. 加藤 輝代子 17

13. 高田 まゆら 16

14. 小野 展嗣 15

15. 新海 栄一 13

幹事として選出される方を除いて、評議員選挙で選ばれた上位 10 名が評議員となります。

2023 年度 会長・評議員選挙管理委員会
馬場友希・高田まゆら・谷川明男



日本蜘蛛学会第 55 回大会印象記

信太理央

はじめに

初めまして、今回、印象記を担当させていただきます。九州大学大学院修士 1 年の信太といいます。大会から時間を経てからの執筆なこともあり、内容に思い違い等の誤りがある場合もあるかと思いますが、温かい目でお読みいただければ幸いです。

大会印象記

さて、今年度の日本蜘蛛学会第 55 回熊本大会は、雄大な阿蘇山の麓に位置する、今年度完成したばかりの真新しい東海大学阿蘇臨空キャンパスで 2 日間にわたって開催されました。なお、本大会は、昨年続く対面開催であり、4 年ぶりの懇親会も実施されました。参加者は、対面が 50 名、オンラインが

開会が両日ともに朝 9 時頃ということもあり、普段から不健康な生活リズムを送っている私にとって、宿泊所を 7 時に出発するのはなかなか困難なことでした。しかしながら、いざ会場に到着すると、大きなワスレナグモの写真や馴染みのある参加者の方々がお出迎えしてくださり、今年もこの時期が訪れたかという実感が押し寄せ、胸が躍りました。気分が上がると自然と目が覚めるものですね。発表会場はスクリーンも大きく、広々とした教室でとても良かったです。

大会は例年通り学生発表から始まりました。今年は過去最多の応募数だったそうです。私自身も初めて発表者側として参加しました。少し緊張しましたが、その反面で感慨深い思いもありました。学生発表のテーマは分子生物学、生化学、生態学、分類学、農学分野などと多岐にわたり、分類学的視点からクモを見ている自分にとって、いずれの発表も研究材料としてのクモの可能性を感じさせ



参加者一同

10 名、合計で約 60 名ほどだったようです。

られる、非常に勉強になる内容でした。ま

た、同世代の学生の研究を知ることは、大変良い刺激になりました

続く一般発表でも、同様に様々な分野の発表が行われました。生態学分野では、野外観察や飼育下で得られたデータを基にクモの生活史や採餌戦略、繁殖戦略に関する成果が紹介されました。特定のクモに着目し、その種の生態を粘り強く観察することではじめて得られる知見はいつも興味深く、魅力的です。分類学分野では、既存の分類体系の再検討を行った研究が多く、大変勉強になりました。分類学的研究の楽しさは、これまでの研究を吟味し、整理すること、また、それを基に現時点で最も確からしい体系を提示することにあると感じました。特に、種数が多い、あるいは形態が多様な分類群では、単型属の乱立など細分化されすぎた状態か、あるいはゴミ箱分類群として一緒くたになった状態として長年放置されてしまいがちです。今回の講演では、このような混沌としたグループを再検討する過程で、新たな属の設立や所属の再評価など、それぞれの解決に向けた研究成果が紹介されました。分子生物学分野では、様々なクモ糸のタンパク質構成や物性の分析結果について、それらの結果と糸の使用用途との関連についての考察も含めた研究が紹介されました。

一般公演に加え、今回の大会では奨励賞が選出され受賞講演が行われました。これは実に5年ぶりだったようです。受賞講演では、カラカラグモ科に焦点を当てた研究が紹介されました。分類学的な整理のみならず、膨大で緻密な野外観察から導き出される生態情報に基づく考察は非常に興味深いものでした。

シンポジウムでは、「農耕地における天敵

としてのクモ」というテーマに焦点を当て、群集生態学、景観生態学、天敵昆虫（クモ）学？といった研究分野から、登壇者による発表と議論が行われました。ここでは水稻の主要害虫であるイネウンカ類の個体群動態における天敵の役割と密度制御効果について議論が行われ、環境における天敵の働きを向上させるエコロジカル・エンジニアリングについても紹介されました。また、水田におけるクモと害虫相の空間パターンに焦点を当て、クモが害虫抑制に果たす重要な役割や、地域ごとに異なる害虫とクモの相互関係についての考察は興味深いものでした。クモの個体数だけでなく、農法や地理的要因が害虫抑制に影響を与えることが示され、これらの要因に応じた地域ごとに異なる圃場管理戦略が必要であることも印象的でした。天敵昆虫学や応用昆虫学分野でこれまで蓄積された手法を参考にしつつ、昆虫との相違点を踏まえながら、クモの天敵としての重要性や意義をいかに強調できるかが、この分野の今後の課題となりそうです。

懇親会は初日の大会後に、キャンパス内の食堂で開催されました。ここでは、講演内容について参加者同士でより深い議論ができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。お酒が入ることで、普段とは違った参加者の一面を見ることができるようのも懇親会ならではの楽しさかと思います。今後も変わらずに対面の懇親会が続くことを願っています。

クモ学会全体への感想

クモ学会に参加されている方々は、分類学、分子生物学、農学、生態学など多様で異なる専門分野に属しながら、それぞれがクモ

という生物に対する深い関心を持ち、研究に取り組みられています。このような多角的なアプローチによって、これまで見過ごされていた、あるいは検証できなかったクモの魅力や特性、有用性が近年急速に明らかになりつつあるよう感じています。

一方でこのような応用的な課題を含む様々な研究を可能としている背景には、これまで多くの熱心なアマチュアやプロの先人たちによる研究や観察によって、クモの生態や分類体系に関する豊富な情報が集約されてきたからだと考えられます。本大会中でも、過去の生態観察から生じた小さな疑問に着想を得た研究が紹介され、ここに新たな分野からの洞察を加えることで、疑問の解決が可能になる例が示されました。改めて、基礎的な観察データなどの蓄積の重要性を再認識するとともに、クモ学会がこれらの情報を広く共有する重要な場であると感じました。

このように、クモ学会は比較的小規模ながら、多岐にわたる研究分野の方が集っており、「クモをいろいろな視点から見れば、まだまだ面白いユニークな研究の可能性はある」ことを実感させられます。日頃、「そのクモの何が面白いのか」や、「その事象を検証するとき、クモを材料として選ぶ意義は何か」などの問いへの答えについて悩んでいる私にとっても、本学会は様々な分野の参加者から貴重な刺激をもらえる有意義な場です。大会ではいつも自身の勉強不足を強く感じながらも、皆様からクモの面白さを学ばせてもらっています。

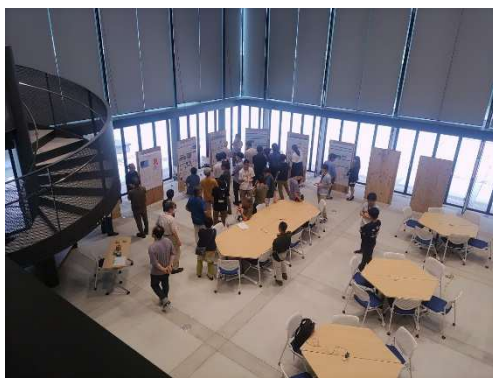
もちろん、クモ学会は、普段は別々の地域

でクモと向き合っている参加者の方々と対面で話せる非常に貴重な機会でもあります。

「こんなクモを採集しているけど見たことがあるか」や、あるいは「このクモのこんな興味深い行動を観察したことあるぞ」というような、互いに1年間で得た成果や気づきを嬉々として語り合えることが、本大会の大きな醍醐味であることは言うまでもないでしょう。時には、二日間では話足りないなとものどかしく感じることもあります。

おわりに

以上まとまりのない雑文となってしまいましたが、ここまでお付き合いいただきありがとうございました。最後に、学会の開催に向けて尽力くださった運営の皆様、発表者、聴講者の皆様に改めて感謝申し上げます。次回の兵庫大会でまた皆様にお会いし、沢山クモについてお話できることを楽しみにしております。



ポスター会場

採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず现阶段では、投稿があれば参考記録として掲載を継続させていただきます。しかし、**幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。**】

クモマハエトリ 福岡県那珂川市大字五ヶ山字東小河内 2023年4月21日 1♂ 福永亮太採集同定・須黒達巳同定確認

ミナミオダカグモ 愛知県長久手市茨ヶ廻間愛・地球博記念公園(35.178035N, 137.084087E) 2023年5月31日 1♀ 萩野典子採集・加藤修朗同定

ヒメチャワシグモ 愛知県名古屋市中区本丸名古屋城 (35.184993N, 136.898312E) 2023年5月24日 1♂ 加藤修朗採集同定・加村隆英同定確認

キジロオヒキグモ 宮城県丸森町(上滝西) 2023年8月6日 1♀ 高木和紀子採集同定

キマダラヒラタヒメグモ 北海道根室市歯舞湿原 2023年7月9日～12日ピットフォール

トラップにて採集 7♂1♀ 芳賀馨採集・松田まゆみ同定

ウブゲワシグモ 北海道根室市歯舞湿原 2023年7月9日～12日ピットフォールトラップにて採集 10♂1♀ 芳賀馨採集・松田まゆみ同定

シモングモ 鹿児島県屋久島長峰 2023年7月7日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

シノノメトンビグモ 鹿児島県屋久島栗生 2023年7月30日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ミナミハヤテグモ 鹿児島県屋久島長峰 2023年8月8日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定



クモマハエトリ

ヤギヌマノセマルトラフカニグモ 鹿児島県口永良部島 2023年9月11日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

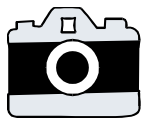
ヤマトジャノメグモ 鹿児島県屋久島永田 2023年9月22日 1♀ 小西祐伸採集同定

クロサワフクログモ 鹿児島県屋久島原 2023年10月24日 1M 小西祐伸採集・谷川明男同定

トラフカノコハエトリ 鹿児島県屋久島春牧

2023年7月28日 1♀ 小西祐伸採集・須黒達巳同定

(新海 明・谷川明男集約)



ギャラリー



『オオトリノフンダマシの網』

2023年8月下旬にアメリカのキャンディド・ディアスさんが来日し、千葉県山武市においてトリフン類の観察をいっしょに行った。彼はトリノフンダマシ類の糸について研究をしており、この時には、網にガがかかるところの映像記録や網糸のサンプル採集などが目的であった。トリノフンダマシ類の網の横糸はたわんでいてあやしい魅力を醸し出すものだが、この個体の網は横糸が特に大きikutawami、また、横糸の間隔や数もなかなか絶妙で、あやしさを倍増のものであった。この写真は8月20日に撮影したが、19日の晩や21日の晩に張った網はここまで整っていなかった。同じ個体が張っても、造網時点で確保できた足場などの条件でバランスが変わり全体の形状も変化するらしい。

撮影・コメント：谷川明男

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

遊絲の発行は、年2回(5月、11月)の予定。
投稿締切は発行月の前月末日(4月末と10月末)です。

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは [REDACTED]

会費の納入、住所変更などは会員マイページでのご操作をお願いいたします。

年会費 正会員 7000 円 (学生は 3500 円)

会長・幹事

会 長

田中 幸一 kt206540+at+nodai.ac.jp

庶務幹事

村田 浩平 kmurata+at+agri.u-tokai.ac.jp

片山 詔久 nory+at+nsc.nagoya-cu.ac.jp

会計幹事

甲野 涼 spidercatchup-at@yahoo.co.jp

繁宮 悠介

編集幹事

山崎 健史 k0468874+at+gmail.com

図書幹事

原口 岳 h1r1g3ch2+at+gmail.com

遊 絲 第 53 号

2023年12月12日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 田中幸一
